

第280回昭和の森自然観察

雑木林の春の色

八木 千里（千葉市）

日 時：2015年4月12日（日） 13時～15時

参加者：大人8名・子ども5名、指導員14名

担当指導員：盛一昭代・八木千里

雨が続いたなか、今日は朝から晴れて気温も16度位になり、花も開いて観察会日和になりました。今回はコナラ・クヌギを中心とした雑木林の色々な木の、春ならではの芽だしの色と、林の中で観られる花（春の儚い命）を観察することにしました。雑木林は最近人気があり高まっているようです。板目紙と和名の色見本を参加者に渡して出発です。

まず谷津田に下りて常緑樹林と落葉樹林を見比べて、色の違いを確認しました。移植したカタクリの場所へ移動して、咲き残っているカタクリ・ヒトリシズカ・イカリソウ・フデリンドウも4本程見つけました。その近くにドングリがしっかりと根づいていて、小さな葉をついているのが愛らしく、交代で写真を撮っていました。アカネも沢山生えていたので、根っこで板目紙に擦ると茜色になり驚いていました。再び菖蒲田から林を見上げるとヤマザクラが咲いていて「山笑う」だねと心和んで実感です。

お花見広場へすると、ソメイヨシノの花吹雪、サトザクラは満開です。足元はタンポポの黄色、スミレ（スミレ科）の濃い紫色が一面に咲き、サクラの花びらが混ざってマルヘンチックです。皆さん配った板目紙を出して、これらの色を擦っていました。おさんは裏表いっぱいに色を付けて見せてくれました。刈込先生の絵でタンポポの説明をしました。タンポポが一度倒れて天気の良い日に起き上がって種を飛ばす箇所では、そのまま枯れてしまうと思っていた人もいて、植物の仕組みに驚いていました。スミレは昨年は一か所に少しあっただけでしたが、今年は一面に広がっていました。蟻さんがずいぶん働いてくれたのかな？

広場をぬけると大きなクヌギが銀色に光っています。近づいて新芽と雄花を観察しました。芽吹いたばかりの葉の細毛（絹毛）も観ました。後ろのエノキの葉もくるくるとカールしたような形が可愛いらしかったです。ラスト近くアカシデが遠目でも赤く見えて、近寄ると沢山の雄花が落ちています。イヌシデも雄花が絨毯のように落ちているので分かる様になったようです。雑木林の代表的なコナラ・クヌギ・イヌシデの3本は区別がつくようになったみたいで、嬉しそうでした。スズメノエンドウ・カスマグサ・カラスノエンドウの見分けは難しそうでした。

色あいは萌黄色・鶴色・若草色・若竹色など。

参加者の感想

- ・葉の色の変化がわかった。
- ・クヌギの春の色が綺麗。
- ・イヌシデが分かった。
- ・スミレの紫色初めてみた
(タチツボスミレしか見たことない)
- ・芽吹きの色が綺麗で癒された。

